

現 地 災 害 調 査 報 告

令和 8 年 4 月 7 日に鹿児島県大島郡伊仙町で発生した突風について

目 次

- 1 概要
 - 2 突風に関する分析結果
 - 3 現地調査結果
 - 4 気象状況
 - 5 防災気象情報の発表状況
 - 6 被害集計
- 参考資料

注) 本資料は、最新の情報により内容の一部訂正や追加をすることがあります。

令和 8 年 7 月 17 日
鹿児島地方気象台
名瀬測候所

1 概要

令和8年4月7日06時28分、鹿児島県大島郡伊仙町（いせんちょう）で突風が発生し、住家の屋根ふき材のはく離などの被害があった。

このため4月8日から9日にかけて、鹿児島地方気象台及び名瀬測候所は、突風をもたらした現象を明らかにするため職員を気象庁機動調査班（JMA-MOT: JMA Mobile Observation Team）として派遣し、現地調査を実施した。

調査結果は以下のとおりである。

2 突風に関する分析結果

(1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性が高いと判断した。

（根拠）

- ・突風発生時に活発な積乱雲が付近を通過中であった。
- ・被害や痕跡は帯状に分布していた。
- ・被害や痕跡から推定した風向は不規則であり、様々な方向が見られた。
- ・突風はごく短時間（1分程度）であったという証言が複数得られた。
- ・竜巻に特徴的な「ゴー」という音が移動したという証言が複数得られた。

(2) 突風の強さの評定（日本版改良藤田スケール）

この突風の強さは、風速約50m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF1に該当する。

（根拠）

- ・住家の広い範囲での屋根ふき材のはく離

《根拠に用いた被害指標(DI)及び被害度(DOD)》

- ・DI：木造の住宅又は店舗
- ・DOD：比較的広い範囲での屋根ふき材の浮き上がり又ははく離（金属板ぶき又は化粧スレートぶきの場合）（代表値）

(3) 被害の範囲

被害範囲の長さは約2km、幅は約400mであった。

3 現地調査結果

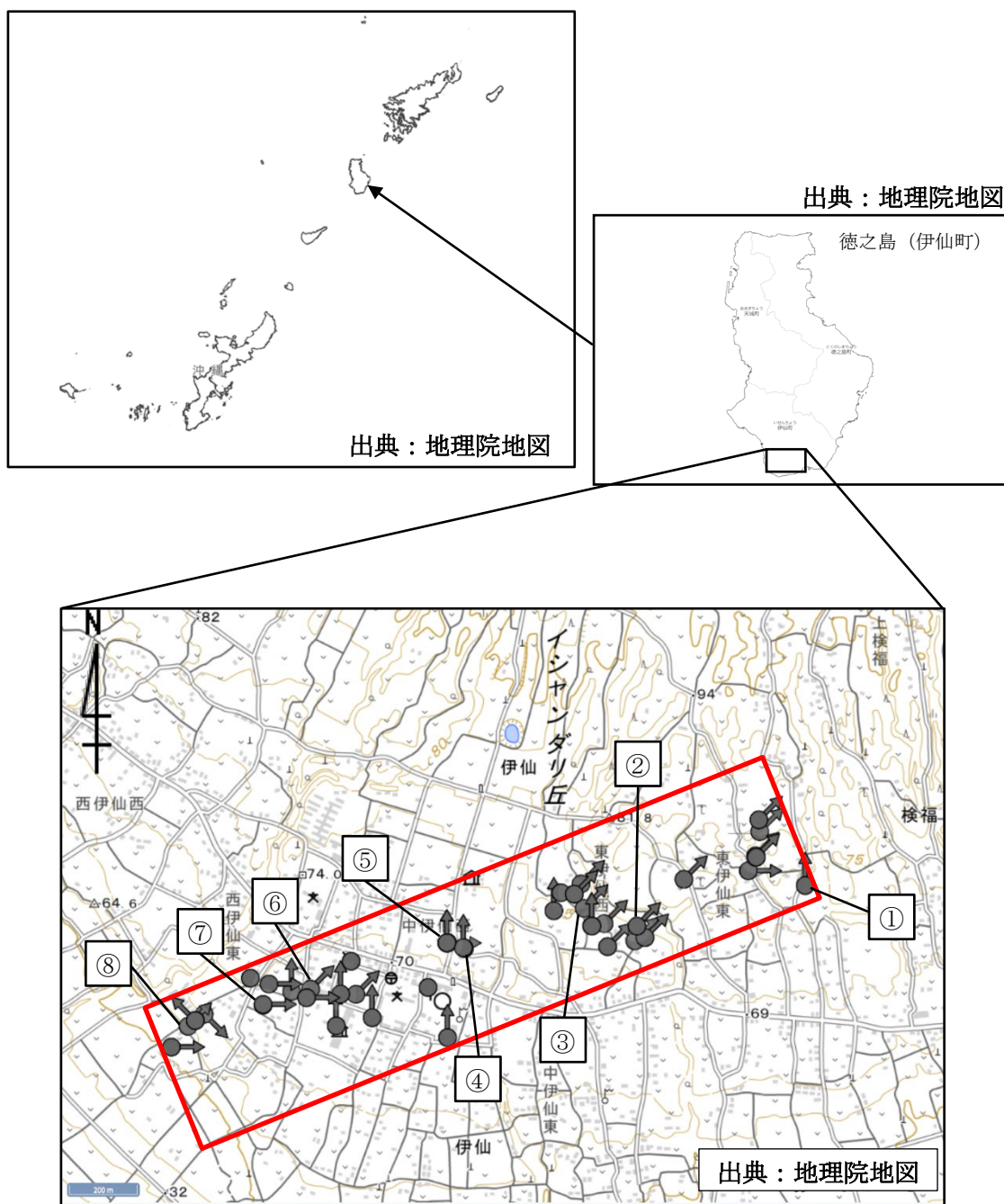
実施官署：鹿児島地方気象台、名瀬測候所

実施場所：鹿児島県大島郡伊仙町

実施日時：令和8年4月8日 08時30分～4月9日12時30分

調査内容：被害を受けた建物等の分布・被害の程度、風の状況等を現地調査すると共に住民から聞き取り調査を実施した。

(1) 被害発生地域図



●：被害や痕跡の地点 ➡：物が倒れたり、飛散した方向 〇：被害範囲

①～⑧：被害状況の写真番号および聞き取り地点と対応

(②は写真のみ、⑤～⑧は聞き取りのみ)

(2) 被害状況



①屋根ふき材がめくれた木造住宅



②幹折れした樹木



③トタン屋根の剥がれ



④根返りした樹木

(3) 聞き取り状況

地点①

- ・06 時頃、家が持ち上がるように感じた。地震かと思った。
- ・その前後で停電し、バーンという音を聞いた。

地点③

- ・トタン屋根がすべて吹き飛んでおり、木の骨組みが露出していた。
- ・トタン屋根は北～北東方向へ飛んで行った。

地点④

- ・今までに聞いたことがない音が 1～3 分程度続いた。
- ・大雨を伴っていた。

地点⑤

- ・06 時 30 分頃、ガシャンと窓が割れる音がした。
- ・今までに聞いたことがない台風以上の音がした。
- ・土砂降りだった。

地点⑥

- ・ゴーという音が近づき遠ざかった。
- ・激しい風は 1 分程度続いた。

地点⑦

- ・ ゴーという音が近づき遠ざかった。
- ・ 激しい風は1分程度継続した。

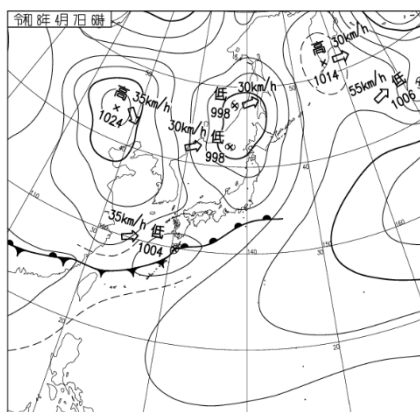
地点⑧

- ・ ゴーという音が近づき遠ざかった。
- ・ 激しい風は1分程度継続した。

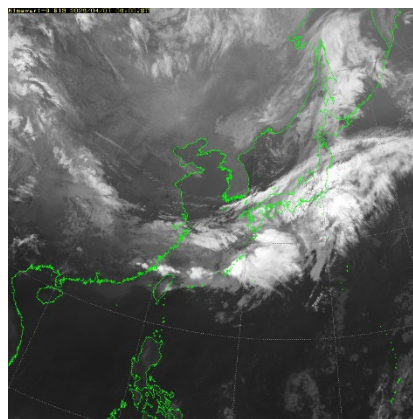
4 気象状況

東シナ海の前線を伴った低気圧が東へ進み、低気圧からのびる前線が7日昼前にかけて、奄美地方を通過した。この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、活発な積乱雲が発生した。

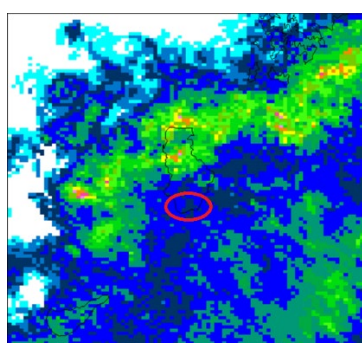
気象レーダー観測では、発達した降水域が断続的に発生し北東方向に進んでおり、突風が発生した06時頃には非常に発達した積乱雲が伊仙町付近を通過した。



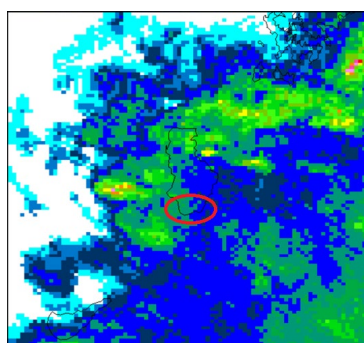
令和8年4月7日06時 地上天気図



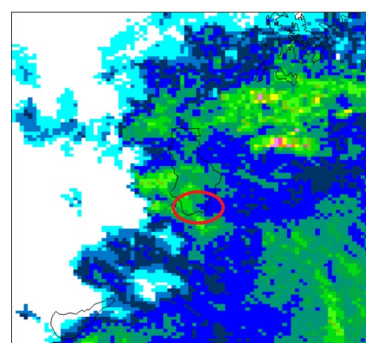
令和8年4月7日06時 気象衛星画像



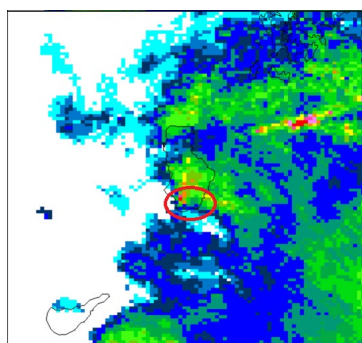
4月7日06時00分



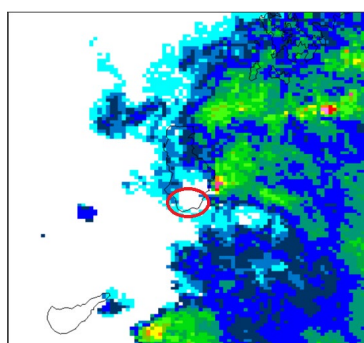
4月7日06時10分



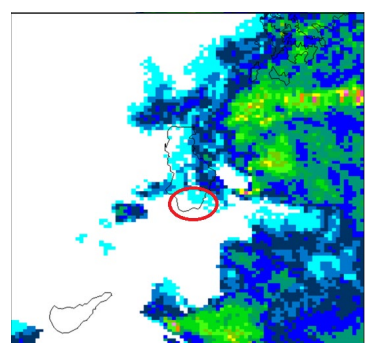
4月7日06時20分



4月7日06時30分

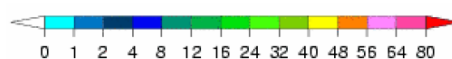


4月7日06時40分



4月7日06時50分

レーダーエコー強度 (mm/h)



(図中 ○ は被害発生地域を示す。)

気象レーダー画像 (令和8年4月7日06時00分～06時50分)

5 防災気象情報の発表状況

令和8年4月7日

注意報・警報の発表状況（対象地域：伊仙町）

発表時刻 警報・注意報	大雨 警報	洪水 警報	暴風 警報	波浪 警報	大雨 注意報	雷 注意報	強風 注意報	波浪 注意報	洪水 注意報	濃霧 注意報
令和8年4月7日04時43分						○	○	○		
令和8年4月7日05時35分						○	○	○		
令和8年4月7日07時41分						○	○	○		
令和8年4月7日10時02分						解	○	○		
令和8年4月7日16時05分							解	○		

●：発表 ○：継続 解：解除

奄美地方（鹿児島県）気象情報の発表状況

発表日時	情報名・番号
令和8年4月7日05時00分	大雨と突風に関する奄美地方（鹿児島県）気象情報 第3号
令和8年4月7日10時20分	大雨と突風に関する奄美地方（鹿児島県）気象情報 第4号

6 被害集計

人的被害・建物被害（令和8年5月19日13時現在 伊仙町調べ）

市町村	人的被害（人）		住家被害（棟）			非住家被害（棟）		
	死者	負傷者	全壊	半壊	一部損壊	全壊	半壊	一部損壊
伊仙町	0	0	0	0	27	0	0	21
合計	0	0	0	0	27	0	0	21

《参考資料》

突風の分類

(1) 竜巻

積雲や積乱雲に伴って発生する鉛直軸を持つ激しい渦巻きで、漏斗状または柱状の雲を伴うことがある。地上では、収束性で回転性の突風や気圧降下が観測され、被害域は帯状・線状となることが多い。

(2) ダウンバースト

積雲や積乱雲から生じる強い下降気流で、地面に衝突し周囲に吹き出す突風である。地上では、発散性の突風やしばしば強雨・ひょうを伴い露点温度の下降を伴うことがある。被害域は円または楕円状となることが多い。周囲への吹き出しが 4km 未満のものをマイクロバースト、4km 以上のものをマクロバーストとも呼ぶ。

(3) ガストフロント

積雲や積乱雲から吹き出した冷気の先端と周囲の空気との境界で、しばしば突風を伴う。降水域から前線状に広がるが多く、数 10km あるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。地上では、突風と風向の急変、気温の急下降と気圧の急上昇が観測される。

(4) じん旋風

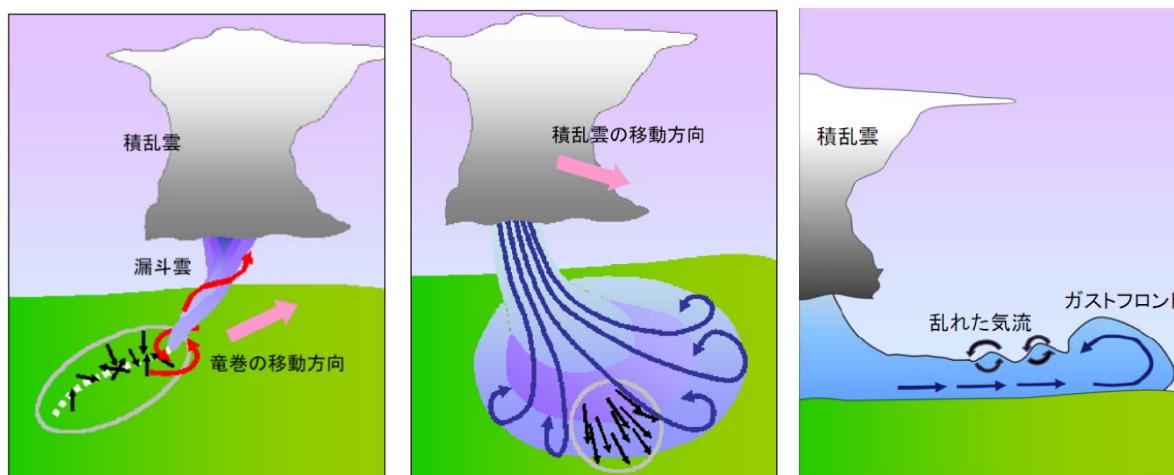
晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂じんを伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の上昇によって発生する。

(5) 漏斗雲

竜巻と同様の現象だが、渦は地上または海上に達しておらず、地表付近で突風は生じない。

(6) その他の突風

自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントの中で発生する旋風などもある。



日本版改良藤田スケール（JEF スケール）

米国シカゴ大学の藤田哲也により 1971 年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをよりの確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケールです。

階級	風速 (3 秒平均)	主な被害の状況（参考）
JEF0	25—38m/s	・木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。 ・園芸施設において、被覆材（ビニルなど）がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。 ・物置が移動したり、横転する。 ・自動販売機が横転する。 ・コンクリートブロック塀（鉄筋なし）の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。 ・樹木の枝（直径 2cm～8cm）が折れたり、広葉樹（腐朽有り）の幹が折損する。
JEF1	39—52	・木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。 ・園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。 ・軽自動車や普通自動車（コンパクトカー）が横転する。 ・通常走行中の鉄道車両が転覆する。 ・地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。 ・道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀（鉄筋あり）が損壊したり、倒壊する。 ・樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53—66	・木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷（ゆがみ、ひび割れ等）する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。 ・鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。 ・普通自動車（ワンボックス）や大型自動車が横転する。 ・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 ・カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀（控壁のあるもの）の大部分が倒壊する。 ・広葉樹の幹が折損する。 ・墓石の棹石が転倒したり、ずれたりする。
JEF3	67—80	・木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。 ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。 ・鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。 ・アスファルトがはく離・飛散する。
JEF4	81—94	・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。
JEF5	95—	・鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。

日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf

謝意

この調査資料を作成するにあたり、関係機関の方々、鹿児島県大島郡伊仙町の住民の方々にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

本報告の地図は、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を複製したものです。

本資料の問い合わせ先
鹿児島地方気象台
電話 099-250-9919
名瀬測候所
電話 0997-53-9054